R6第２回現地説明会資料　令和６(2024)年10月27日(日)

上侍塚古墳（かみさむらいづかこふん）

栃木県大田原市湯津上（おおたわらゆづかみ）地内

栃木県生活文化スポーツ部　文化振興課
宇都宮市塙田1-1-20　℡028-623-3425
(公財) とちぎ未来づくり財団　埋蔵文化財センター
下野市紫474　℡0285-44-8441
http://www.maibun.or.jp

栃木県では重要な遺跡や文化財の保存・活用事業「いにしえのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」の一環として上・下侍塚古墳の調査を行なっています。
６～10月の調査成果をご紹介します。

調査の状況

a 前方部南（E0前方南斜）トレンチ

墳丘は壊されていましたが、裾部は壊されずに残っていました。
残された部分で計測すると、墳丘中央部の全長は112.6～112.7mになります。
（前方部の裾は西半分で外に広がるので、昨年度調査した前方部南西の裾部で測ると全長は114.0m）

墳丘裾部の埋没状況(西から)

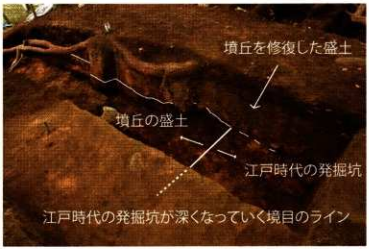
石を外した様子(東から)

残っていた墳丘裾部には落下した葺石（ふきいし）が大量に流れ込んでいます。

石を外すと裾部の斜面が姿を現しました。

b 後方部（E0頂南）トレンチ

江戸時代の調査の際、発掘坑を埋め戻した後に墳丘を修復しています。今回の調査でも修復された盛土が確認されました。中央には深く掘った江戸時代の発掘坑の立ち上がりが確認されています。



江戸時代の発掘坑の様子(北東から)

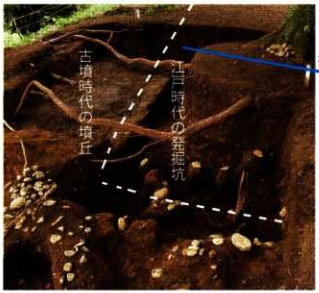
トレンチの南側では江戸時代の発掘坑の下から墳丘の盛土が確認されています。

c 後方部墳頂（W1 頂南区）

江戸時代に修復された盛土が確認されました。盛土は中央が高くなっており、ローム（黄色味がかった土）を多く使用し、土まんじゅう状になっています。盛土の下からは古墳時代の墳丘も確認されています。

江戸時代に修復された盛土が現れました。
黒くなっている部分は、発掘坑が陥没したために表土が流れ込んだところです。

W1 頂南区（南から）



江戸時代の発掘坑の南西部の範囲（南東から）

拡大

江戸時代に修復された盛土です。

江戸時代の発掘坑を埋めた部分です。

黒い層は墳丘の盛土です。

江戸時代に修復された盛土（東から）

修復された盛土の中から石が大量に出土した様子（南東から）

d 後方部墳頂（E3 頂南区）

江戸時代に修復された盛土はロームブロックの塊（黄色味がかった土）を多く使っています。東端斜面では古墳時代の葺石によく似た貼石（石積）も確認されました。

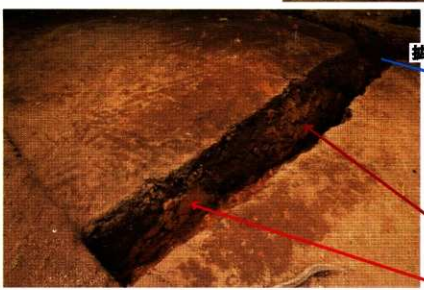
江戸時代の発掘坑の推定ライン（東から）

E3 頂南区東側の貼石の様子（北東から）

貼石付近は傾斜が急になっています。

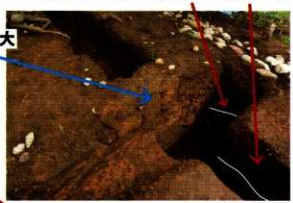
江戸時代に修復された盛土の一部には砂が主体となっている層もあります。
近くを流れる那珂川周辺の崖からロームや礫を含んだ土や砂などが採れるので、このあたりから運んできたのかもしれません。

線の下は古墳の墳丘の盛土です。上層は江戸時代の発掘坑の埋め戻しです。



調査区南東の江戸時代に修復された盛土の様子（南東から）

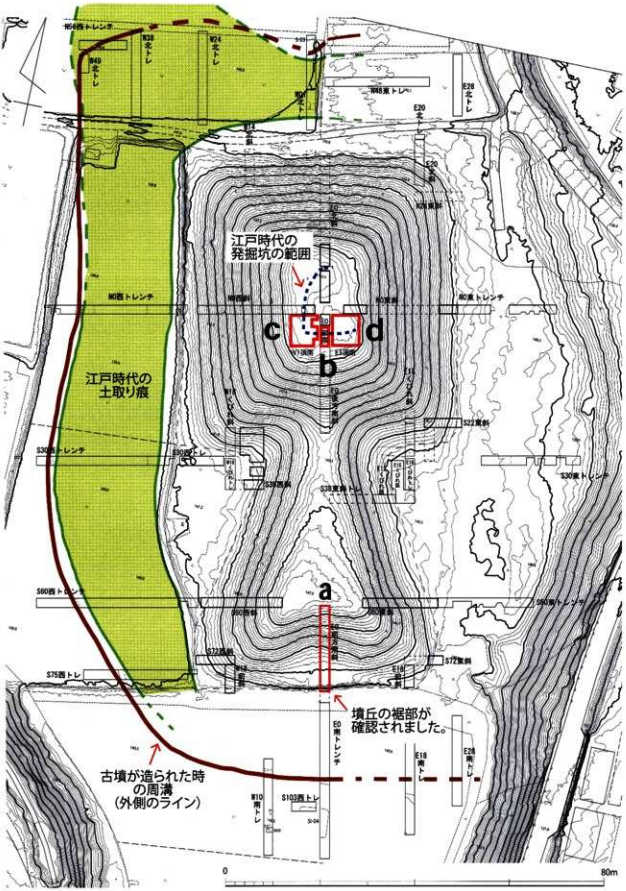
拡大



（南西から）

ロームブロックの塊を多量に使い、埋め戻しを行っています。

江戸時代の発掘坑の縁辺にロームブロックの大きな塊が堤のようになっています。土留と考えられます。


江戸時代の
発掘坑の範囲
江戸時代の
土取り痕
古墳が造られた時
の周溝
(外側のライン)
墳丘の裾部が
確認されました。
a
b
c
d
0
80m